

# 日本キリスト改革派教会 教会憲法入門講座

## 第6章：『礼拝指針』について

### 第3章 公的礼拝の要素 2、3、5節

#### 2. 神からの恵みの「語りかけ」と、感謝の応答としての礼拝（続き）

ですから「賛美」にしる、「祈り」にしる、「信仰告白」にしる、それは皆、神の恵みに対するわたしたちの「応答」です。神の恵みに対する、わたしたちからの感謝の応答であり、信仰の応答であり、献身の応答なのです。そしてこの「神の恵み」は、御言葉によって示され、約束されますから、それはその「礼拝で語られた御言葉の恵みに対する応答」ということとなります。聖書では、賛美は「感謝の捧げもの」（詩 28 編 7 節）として、歌による神への感謝と喜びの表明とされています。また「イエスを通して賛美のいけにえ、すなわち御名をたたえる唇の実を、絶えず神に献げましょう」（ヘブライ 13 章 15 節）と、それが動物犠牲に代わる「賛美のいけにえ」とされています。このように「賛美」とは、神からの溢れるばかりの恵みに対する、わたしたちからの「感謝の応答」であり、それは「いけにえ」とあるように、わたしたちの「献身の表明」なのです。わたしたち稲毛海岸教会の通常の礼拝では五つの賛美を捧げますが、それぞれに意味があります。それはまず、わたしたちをこの礼拝へと招きいれてくださる主なる神を賛美し、次に罪の赦しをもって迎え入れ、祈りに応えてくださる神を賛美し、朗読された神のみ言葉への感謝をもって賛美し、その説き明かしによって明らかにされた神の恵みに感謝して賛美を捧げ、最後に救いの御業をおしまず為さる三位一体の神を賛美して頌栄を捧げていくということです。その一つ一つを心を込めて、賛美していきたいものです。そしてわたしたちの礼拝は、賛美を一つ一つ重ねる毎に、徐々に神へと高められていくものとなるのです。

#### 3. 神の恵みに対する感謝の応答としての神賛美

##### a. 音楽による「祈り」－教会の公同性と一致を表す「ひとつになって」

そもそも「賛美」とは何でしょうか。「賛美」とは「祈り」です。それも音楽による「祈り」なのです。わたしたちは様々な「祈り」を祈ります。神の賛美、恵みへの感謝、信仰の告白、罪のざんげ、隣人のための執り成し、様々な祈願などです。それが音楽によって祈られるのは、そこで教会の公同性と一致を表すからです。詩編では、このように歌われています。「どのようなときも、わたしは主をたたえ、わたしの口は絶えることなく賛美を歌う。わたしの魂は主を賛美する。貧しい人よ、それを聞いて喜び祝え。わたしと共に主をたたえよ。ひとつになって御名をあがめよう」（詩 34 編 2－4 節）。このように、「賛美」とは、個人の主観的な信心の歌ではなくて、どこまでも「賛美の共同体」である教会の「共に歌う祈り」です。一人一人が個人的に祈っている祈りを、教会の礼拝に共に集ったとき、皆で共に祈る、それが「賛美」に他なりません。礼拝の賛美をあくまでも「斉唱（ユニゾン）」で賛美するのは、そのためです。そこでは皆が「ひとつになって祈る」のであり、あたかも一人の人のようにして神に向き合い、神に応答していくのです。「使徒信条」を皆が一緒に告白しながら、「わたしたちは」と告白せず、「わたしは」と告白するのと同じ意味からです。そのとき教会は、「信仰告白共同体」として一人の人として神に向き合うのです。